

# 「観測」は最も信頼できる情報発信手法なんですね。

原発事故、豪雨や竜巻といった局地的な天候被害など、住宅周辺の環境に対する関心が高まっています。東京都日野市にお住まいの石川宏さんは、10年前にOMソーラーの家を建てられ、以来、自宅における気象観測、温熱計測、放射線量計測などの計測データをインターネットを通じてリアルタイムで公開しています。特に、福島原発事故以降、放射線量のライブ公開は注目を集め、国内外から多数の問合せや取材を受けたといいます。今回は石川さんを訪ね、「測る」との意義についてあらためて考えてみたいと思います。

## 計測は「継続は力なり」

石川さんは元NTTの技術者で、長年ネットワークのシステム開発に携わられてきました。仕事柄、情報発信の面白さに早くから気付き、どうやって情報発信するのがよいか考えていきました。「情報発信は筆が立つ人は続きますが、なかなか持続しないのが普通です」発信する側も見る側も飽きずに長く続けられる方法がないか考え、思いついたのが計測データを自動的にアップデートできるしくみをつ

くることでした。「計測データというのは、長く取れば取るほど意味が増していくします。継続しているからこそ分かることもあります。継続しているからこそ分かることがあります。こう語る石川さんは、だつた会社の同僚が、阿蘇の麓に別荘を建てたので遊びに行つたんです。新緑の頃でしたが、その周辺では一番高所にある別荘だったので外はまだ寒くて。でも、家の中は快適そのものでした」その別荘がOMソーラーの家だつたのです。石川さん

は20年以上前に見たOMソーラーの広告の記憶が、その時に蘇ったのです。「新聞見開きの広告で、そこには『太陽を活かしています』、『モデルハウスはありません』、『評判が評判を呼んでいます』、『考え方と共に感じ、しくみをよく理解した工務店がつくります』と書かれていたと思いません。面白い家づくりがあるものだと思って、そのことを思い出しました」この時、石川さんは、「よし、次は俺が建てる番だ」と決心し、二軒目の家づくりが始まったのです。

## 加工も編集もできない情報発信

OMソーラーの自宅は石川さんにとって格好の計測対象になりました。「OMの性能を、きちんと数値で捉えたくなつたんです」そのため、気象観測のセンサーを自作し、さらに興味は放射線量にまで広がりました。「日本では気象観測は国がすることと認識があります。ましてや放射線量など、原子力関連施設以外で計測しているのは稀でしたし、ライブで計測・発信していたのは当時私くらいだったと思います。アメリカなどでは気象観測や放射線量を計測しているアマチュアは多く、計測器などもキットで売っています」石川さんは通販で外国製の計測器を

入手し、24時間ライブ計測できるシステムをつくりました。「測り始めるとホームページを見ている人が逆にいろいろ教えてくれるんです。福島原発の事故のときもそうでした。私の観測データは知らず知らずのうちに人々から当てにされ、公の情報になっていたのです。だからやめるにやめられなくなってしまった…」放射性物質の飛散状況も気象観測を同時に行なつていたため詳しく述べたところができたといいます。原発事故直後には、海外のメディアから多数の問合せを受け、ライブで観測、公表することの意味の大きさをあらためて感じられました。「ライブで公表しているためデータに加工も編集もできません」安全だとも危険だとも言わず、刻々と計測しているだけです。それは「安全」を連呼する情報発信とは対照的なり方です。石川さんの取り組みは、「計測」そのものの重要性と共に、情報発信の本質を投げ掛けているのだと感じました。現在も事故時から最新の情報をホームページで公開中です。「ナチュラル研究所」で検索してみて下さい。

イベント案内  
2012年7月21日(土)、(株)鈴木工務店のイベントにて石川さんのお話が伺えます。詳しくは鈴木工務店ホームページ参照下さい。



豊かな石川邸の外観。ガレージ屋根のモッコウバラが満開に(写真撮影:石川宏)。



ガイガーカウンター(放射線量計)は屋内の開口部(引き違い部分)付近に置かれている。



デッキにて。豊かな植栽、雨水利用など、石川さんはバッジなライフスタイルの実践者でもある。



ナチュラル研究所としてのスペースは2階にある。ライブデータ公開用のパソコンが置かれている。



石川宏氏。ナチュラル研究所の名称には「人の手の入っていないままの状態」という意味が込められている。